

令和 8 年度					事務事業一覧表(シート作成分を除く)					担当課	生涯学習課		担当G	社会教育		作成日	令和 8 年 7 月 1 日	作成	
振興計画体系					総合戦略体系		事業番号	事業名	事業目的	事業内容	令和8年度 事業費(千円)					実施状況	成果	課題	今後の方向性
											国県支出金	その他特定財源	一般財源(志基金含む)	合計	前年度比				
5	2	2	3	5		434	社会教育総務費	社会教育委員の会をはじめとした社会教育に関する事業を総合的に推進する(社会教育主事の赴任旅費を含む)。	・条例委員の委嘱、報酬及び費用弁償伝票処理、会議運営(年2回)等 ・県、地区の社会教育委員連絡協議会へ出席 ・公民館運営審議会委員と兼務			1,173	1,173	0	会議を年2回開催し、生涯学習課が行う事業や諸計画について、実施状況や事業に対する意見聴取を行った。	社会教育に関する諸計画の立案や教育委員会から諮問を受けた際の答申等、社会教育行政の現状や計画に対する意見を聴取し、事業の成果や次年度計画に活用した。	年2回の会議の中で、社会教育行政の現状に対する意見をいただき、次年度計画や事業に活用して行く必要がある。	現状維持	
5	2	2	4	1		434	高齢者学級開設事業	高齢者(65歳以上)の方々が心身の健康を保持し、いきがいと潤いのある人生を創造していくため。	・21の高齢者学級の参加者募集 ・健康教室、料理教室、交通安全教室等の学習実施等			598	598	0	高齢者学級の開設により、各種研修会、研修視察等の実施により、高齢者の交流・生きがいづくり等、高齢者が学ぼうとする熱意と健康意識が高まった。	学級生が学ぼうとする熱意と健康を高めようとする意欲が高まり、今後、研修内容の充実や事業周知により参加者確保を図る必要がある。	高齢化・過疎化等により参加者が減少傾向にあることから、今後、研修内容の充実や事業周知により参加者確保を図る必要がある。	現状維持	
5	2	2	3	5		1053	PTA連絡協議会支援事業	単位PTA相互の緊密な連絡と協力により、本市PTA連絡協議会の健全な発展を図るとともに、家庭・学校及び社会における教育の振興に協力し、園児・児童生徒の福祉を増進する。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援等			615	615	△ 54	総務部会、理事会、専門部会、総会、PTA会長会、母親部会等の開催や食育レシコンテスト、新聞発行等の活動を行った。	学校、家庭、地域が一体となることが期待される中で、PTA活動はその重要性を増しており、各PTA、会員相互の連携や情報交換、資質向上等が図られた。	会員の資質向上を目的に様々な講演会等へ参加要請や案内をしているが、参加者の確保が難しく内容の見直しや周知の手法を検討する必要がある。また、各ブロックの活動の在り方についても検討する必要がある。	現状維持	
6	2	2	4	1		1054	地域女性団体連絡協議会支援事業	女性が地域活動に積極的に参加し、会員相互の親睦を図るとともに、明るく住みよい郷土の振興を図る。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援等			804	804	0	グラウンド・ゴルフ大会、ふるさとを興す県女性大会、管轄地区及び県地域女性連絡会等へ参加した。	女性が地域活動に積極的に参加し、会員相互の親睦を図るとともに、明るく住みよい郷土の振興を図ることができた。	会員数の減少や組織運営の課題があることから、会員募集の周知や事業内容の見直し等により、魅力ある協議会づくりを検討する必要がある。	現状維持	
5	2	2	3	5		439	青少年育成市民会議支援事業	市内の青少年育成組織の連絡提携と活動促進を図り、青少年の健全育成を総合的に推進する。	・委員の委嘱、謝金伝票処理、会議運営(年1回)等			169	169	5	青少年育成市民会議を年1回開催し、青少年育成組織の連絡提携と活動を促進し、青少年の健全育成が図られた。	会議の中で、各組織の代表による、様々な意見や提言を取りまとめ、青少年の健全育成に資するため各学校へ提言として広く周知が図れた。	少子化・過疎化により、児童生徒が減少し、また、核家族化等により地域とのつながりが希薄になってきていることから、青少年育成に関わるの意識啓発が図る必要がある。	現状維持	
5	3	1	4	1		1056	はたちの集い開催事業	20歳の門出を祝うとともに、成人者に大人としての自覚と責任を認識してもらい、郷土の良さを再確認することにより地域活動の推進を図る。	・新成人への案内・周知 ・実行委員の募集 ・実行委員会の運営 ・式典等の運営 等			774	774	108	成人年齢の引き下げにより、式典の対象は20歳のまま、式典の名称を「はたちの集い」に変更し開催した。対象者の約70%が参加した。	新型コロナウイルス感染症の予防対策を行う中での開催であったが、参加者の協力のもと落ち着いた雰囲気での式典となり、旧友との再会を喜び合う姿があらこちらで見られた。	毎年、実行委員を募集しているが、その年で応募状況にバラツキがある。また、実行委員会が中心となって内容検討や当日の運営等に関わり、新成人が主体となって進める必要がある。	現状維持	
2	6	2	3	5		1058	校外生活指導連絡会支援事業	市PTA連絡協議会、各学校及び関係機関団体が協力提携し、校外における生活指導の充実を図る。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援等			50	50	0	各学校の連携を図り、長期休暇期間を中心に、愛のバトロール、防災無線放送での周知等を実施した。	各学校の連携により、長期休暇期間を中心に、愛のバトロール、防災無線放送での周知等を実施し、青少年の非行防止や事故防止対策が図られた。	青少年を取り巻く環境は、携帯電話(スマホ)の普及やインターネットによる情報の氾濫など大きく変化しており、それらに関するルールづくり等が必要となっている。	現状維持	
5	2	2	3	5		1059	子ども会育成連絡協議会支援事業	地域の子ども会育成者が連携・協力し、子ども会活動の充実とともにリーダーの育成し、子どもの健全な育成を図る。	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援等			414	414	△ 60	役員会、総会の書面開催、単位子ども会行事への各助成金交付、単位子ども会員の保険加入等を実施した。	単位子ども会の活動を支援することで、地域間・世代間交流、青少年健全育成が図られた。	少子化・過疎化により、年々単位子ども会が減少しており、単位子ども会の合併や校区での子ども会活動を検討しながら、活動の充実を図る必要がある。	現状維持	

振興計画体系			総合戦略体系		事業番号	事業名	事業目的	事業内容	令和8年度 事業費(千円)					実施状況	成果	課題	今後の方向性
									国県支出金	その他特定財源	一般財源(基基金含む)	合計	前年度比				
5	2	1	3	5	1062	生涯学習出前講座事業	市等の公的機関が行っている事業について、市民の方々に理解し、身近に感じていただくことを目的として	行政の仕事を市民に広く認知してもらうために、市民からの要望に応じ、職員が講師となり、出前講座という形			44	44	0	年間100回を超える講座が開催されている。	市民に対し、市政の状況が広く伝えられ、理解が進んでいる。	特になし	現状維持
5	2	1	3	5	443	文化振興	児童、生徒、市民の音楽を通じた交流による青少年健全育成に努め、身近な交流を通して様々なジャンルの音楽活動で豊かな感受性を培う。	市内小中学校及び地元高校の吹奏楽部等が一堂に会し、練習してきた成果を発表するとともに、お互いに鑑賞しあうことで、技術の向上と交流を深めている。			1,280	1,280	0	年1回、技術の向上を目指したみやまコンサート講師陣による技術指導のほか、年度末に一堂に会して音楽祭を実施している。	学校間、世代間を超えた交流が音楽を通して図られている。	部活動の地域展開に伴う部活動の運営	現状維持
5	2	3	4	5		学校体育施設開放事業	市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場として、学校体育施設を学校教育の支障のない範囲で開放し、市民が健康的な生活を営むことにつなげる。	地域住民のスポーツの普及・発展と生活化を図るため、学校の体育施設を一般の利用に開放する。			315	315		市内の小中学校21校が、学校施設開放運営協議会を設置し、施設の開放を行っている。	令和4年度においては、延べ62,132人の利用があり、市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場として、施設が利用された。	現在の施設利用については無料である。しかし、受益者負担の必要性もあり有料化の検討も必要である。	現状維持
5	2	3	4	5		地域海洋センター連絡協議会参画事業	連絡協議会主催会議等に職員が参加し、指導能力の向上、実践することで生涯スポーツ振興や健康づくりに寄与する。	地域海洋センター連絡協議会主催の会議等に参加し、研修等を受講し、今後の活動に活用する。					0	南九州ブロック地域海洋センター連絡協議会総会、B&Gスポーツ県大会、南九州ブロック地域海洋センター・海洋クラブ責任者会議等に参加している。	他のセンターや海洋クラブ、指導者協議会等の情報交換、B&G財団本部職員による助成事業説明や指導者表彰等、指導者の資質向上にも繋がっている。	会議や研修については事務局の出席であるが、施設については、現在指定管理制度を導入しており、今後指定管理者で各資格取得についても検討が必要となっている。	現状維持
5	2	3	4	5		志布志ジョガー駅伝競走大会事業	駅伝を通じて、走る喜び走る楽しさを味わいつつ、参加者の連携と親睦を深める。また、スポーツ精神の高揚と青少年の育成と健康の増進を図ることを目的とする。	心身共に明るく気迫に満ちたたくましい青少年の育成と、チームで走る楽しさ、喜びを味わい、併せて参加者相互のふれあい、参加者の体力向上及び健康増進を図るため5区間の駅伝を実施する。			255	255		小学生の部と中学生以上の一般部の部を開催し、例年100チーム弱の参加がある。	小学生の部においては、スポーツ少年団の参加が多く、普段とは違う競技を通してチームの連携を深めることができる。一般の部の中学生・高校生については、競技力の向上が図られる。社会人については、運動のきっかけとなる。	今後は、新たな部門を設定し、幅広い年代からの参加者を増やしていく必要がある。	現状維持
5	2	3	4	5		志布志市スポーツ少年団本部運営支援事業	スポーツ少年団活動の充実、指導者・母集団の資質向上が図り、単位団や団員数の増加につなげる。	市スポーツ少年団本部に32団体(令和3年度末)が加盟しており、その団体の統括、少年団登録事務、活動助成を行っている。			928	928		市スポーツ少年団本部に32団体(令和4年度末)が加盟しており、本部常任委員会・指導者協議会の開催及び各種研修会等を開催されている。	本部常任委員会・指導者協議会の開催及び各種研修会等を開催し、少年団活動の充実、指導者・母集団の資質向上が図られている。	大会数が多く競技志向が強くなっており、県スポーツ少年団本部の示す週3回以内1日平均2時間以内の原則が遵守されていない団体もある。大会が多いため、学商工会への事務局移管を検討する。	現状維持
5	2	3	4	5		志布志大相撲後援会運営事業	志布志大相撲後援会の総括運営にあたり円滑かつ効率的に実施することを目的とする。	国技相撲において志布志市出身の力士が、より精進活躍できるよう協力、支援する。			324	324		九州場所の応援ツアーや、力士の帰郷に合わせて、激励会を実施している。	千代丸・千代鳳関の応援ツアーの実施や激励会の開催等支援ができています。		現状維持
5	2	3	4	5		海洋クラブ運営支援事業	カヌー教室を通じて得られる海・船・海洋環境の知識や、集団活動による社会性の習得することにより、スポーツ活動や青少年健全育成の推進を図る。	カヌーなどの海洋性レクリエーション活動を通じて、海・船・海洋環境に係る理解を深めることを目的に、カヌー教室を開催しており、県大会にも参加している。			149	149		例年15名弱の子どもたちが参加し、カヌー教室を通じて、集団活動による社会性を習得している。	令和4年度においては22名が参加し、カヌー教室だけでなく、SUPやニュースポーツ等の体験もできた。	広報活動をおこない参加者の増加を図る必要がある。	現状維持
5	2	3	4	5		志布志みなとサッカーフェスティバル事業	志布志みなとサッカーフェスティバルを開催するために必要な一切の準備、大会の総括運営にあたり円滑かつ効率的に実施することを目的とする。	市内内外のサッカー部の高校生が一同に会し、サッカーフェスティバルを開催することにより、市民のスポーツに対する意識の高揚と、参加チームの技術の向上発展を図るとともに、市内への合宿誘致を図る。			810	810		例年、8月1日からの12日間で100チーム近くが参加し、切磋琢磨している。参加校は、九州管内だけでなく、さんふらわあを利用して、関西方面からの参加も多い。	サッカーの町として志布志＝サッカーを目指し、市民のスポーツに対する意識の高揚が図られ、参加高校においては技術の向上が図られる。併せて参加校による宿泊や弁当購入等、地域への経済効果も非常に大きい。		現状維持
5	2	3	4	5		伊崎田相撲大会実施事業	地域の五穀豊穡、家内安全を守る地域の伝統行事を継承するとともに、地区民の親睦、融和と青少年の健全育成を図る。	小学校の部、中学校の部、一般の部による相撲大会及び赤ちゃんの土俵入りを実施する。			180	180		小学校の部、中学校の部、一般の部を開催している。また、赤ちゃんの土俵入りや化粧まわしコンクールを実施している。	地域の伝統行事を通して、地区民の親睦、融和と青少年の健全育成が図られている。	現在の支出は、補助金として行っているが、報償費としての支出やコミュニティ協議会助成金との統合を検討する。	現状維持

振興計画体系			総合戦略体系		事業番号	事業名	事業目的	事業内容	令和8年度 事業費(千円)					実施状況	成果	課題	今後の方向性
									国県支出金	その他 特定財源	一般財源 (志基金含む)	合計	前年度比				
5	2	2	3	5		松山歴史民俗資料館管理業務	歴史民俗資料館の維持管理。	「青少年の体験活動」の場、「生きがいづくり」の場、「助け合いの自立自興」の場となる様、人と人の交流の中心的施設となることを目指す。		1	299	300	0	施設の老朽化に伴い、修繕改修等の必要箇所が増加している。展示物を一括管理できるように整理している。	展示物の一括管理ができている。建物の機械警備、消防設備等の定期点検等ができています。	・施設の老朽化に伴い、修繕改修等の必要がある。 ・展示物の維持管理の質の向上。 ・市内類似施設とのあり方、統合。	市文化財管理室と統合化に向けた協議を進めていく。
												0					